公益社団法人 横浜歴史資産調査会 発行　日々の暮らしと横浜の歴史資産を一歩近づける
2020 早春号
ヨコハマヘリテイジスタイル

住友倉庫（2017. 1. 16 撮影）

消えゆくホイストクレーンの倉庫群　山下埠頭

安川千秋（写真家・日本写真協会会員・日本建築写真家協会会員）

今ＩＲ誘致問題で、全国からの注目を浴びる山下埠頭。昭和の倉庫街としての役割を終えようとしている。元町商店街や山下公園の賑わいから逃れ、一歩埠頭に入ってみよう。現在、氷川丸側の倉庫はすでに取り壊され、また新山下側の倉庫群にも解体重機が入り着々と再開発の準備が進められている。だが、ひとけも少なくなった倉庫街を歩いてみると、昭和の港湾荷役を見守ってきた歴史や、当時の息遣いのようなものを今でも感じることができる。色褪せヒビの入ったコンクリートの壁に、ペンキが剥げた鉄の扉に、どこからやってきたのだろう色とりどりのコンテナやトレーラーに、すでに消えてしまったかつての新港埠頭や高島埠頭で感じた建物にしみ込んだ時代の体臭みたいなものを、、。

山下埠頭は 1953 年 (昭和 28) から埋め立てが始まり最終的に完成したのが 1963 年（昭和 38)、東京オリンピックの前年だ。ちなみに 63 年は横浜市長が半井清から飛鳥田一雄に変わった年。またこの年には、もう本牧ふ頭の埋め立て工事が始まっている。高度経済成長期に向かって、横浜の港が大きく発展していく時代ということになる。

山下埠頭の倉庫群はほとんどコンクリート造だ。一見味気のないただの四角い箱のようだが、よく見るとそれぞれ意匠も感じられる。水平ラインを強調した軒の深いバルコニーや連続する窓や扉、また倉庫会社名の入った屋上部分など戦後モダニズムのデザインも感じてしまう。なかでもいちばんの魅力は、屋上部分から突き出たホイストクレーン (以下ホイスト) ではないだろうか。コンテナ物流時代の今ではもう見ることのない、ホイストのある倉庫群が力強い港の景観を創っていたといえる。昭和の港湾物流の生き証人として、ホイストのある倉庫を産業遺産として残してほしいところだが、それもかなわぬ夢か。ルーレットはもう回り始めている。ここは回転をいったん止めて、ＩＲ、再開発をもう一度考え直してもいいのではないか。まだ間に合う、まだ遅くはない、、。

山下埠頭の歴史をふりかえる

安川千秋（やすかわ・ちあき）

埠頭に線路があった頃

山下埠頭の歴史を簡単に振り返ってみよう。前述のようにすべてが完成したのが1963 年。面積は 47 ㌶もあり、横浜スタジアム 18 個分の広さになる。バース (船が停泊できる岸壁) が 10 カ所、 3 つの突堤を持ち倉庫や上屋、事務所などを含め 40 もの建物がそこに建っていた。ただここは、その後主流になる大型船によるコンテナ物流に対応した埠頭ではなく、かつての新港埠頭や高島埠頭同様、鉄道輸送型の埠頭だった。山下公園の上を通っていた線路が引き込まれ、埠頭内には山下埠頭駅まであった。1970 年の地図を見ると倉庫や突堤にある上屋まで毛細血管のように線路が伸びていたことがわかる。倉庫の周りではホイストがうなりを上げ、その下ではフォークリフトが忙しく走り回り労働者の大きな声が響き渡る、そんな活気に満ちた光景が目に浮かぶようだ。

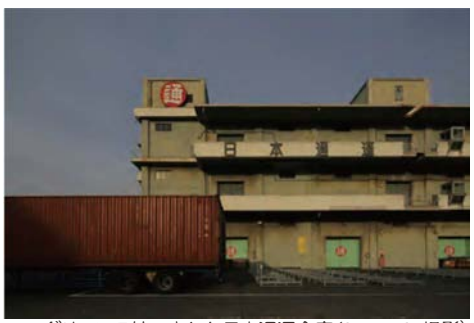
しかしその後 80 年代に入り港湾荷役の場はコンテナ専用の本牧埠頭や大黒埠頭に移り、山下埠頭はその両埠頭を補完するカタチで使われることになる。埠頭にあった駅も 1986 年 (昭和 61) には廃止され埠頭から鉄道は消えていった。今の埠頭のアスファルトを剥がしたら、線路の遺構が出てくるのではないかと正直思ってしまう。1980 年 (昭和 55) の横浜開港 120 周年記念時には、この山下埠頭駅～東横浜駅 (桜木町にあった国鉄の貨物駅) 間に SL が運行されたのだからもはや隔世の感を覚える。

消えゆく昭和30年代の港の景観

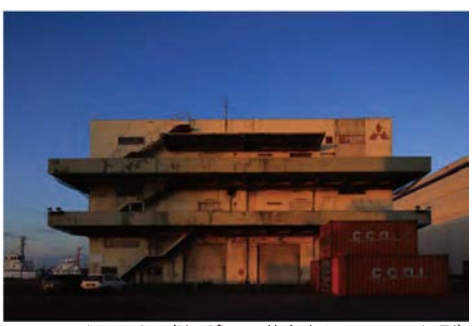
さてもう一度山下埠頭を歩いてみよう。氷川丸側に鈴江倉庫や三井、三菱の倉庫群が並ぶ。みなとみらい方向に向かってその存在を誇示するかのようにホイストが力強くのびている。いや正確にはのびていた。残念ながら昨年段階的に壊され、今では写真でしか知ることができない。いちばん手前にあった鈴江倉庫の営業開始が1957 年 (昭和 32) なので、段階的に完成した埠頭の中でもいちばん古いエリアではないかと思う。倉庫もその年に完成したと思われる。埠頭中央部に建つ日本通運倉庫の碇石を見ると昭和 37 年と刻まれており、新山下側に残る東倉庫の碇石は昭和 38 年となる。すべての倉庫に碇石があるわけではなく、学者でもない一写真家の勝手な想像だがみなとみらい側から新山下側へと段々と倉庫が建設されていったのではないだろうか。みなとみらい側の倉庫がホイストクレーンなら、新山下側は海まで伸びた鉄骨柱の付いたホイストや穀物サイロのアンローダ（陸揚げ機）、係留されたダルマ船が風景にインパクトを与えている。高速道路から見ると黄土色に塗られた新港倉庫のサイロはチョットした埠頭のランドマークになっている。いやここでも「なっていた」というべきだろう。本紙が出るころには姿を消しているかもしれない。それにしてもすべて昭和 30 年代の年季の入った味のある倉庫群である。どれを見ても少しずつカタチや色が変わり、コンテナや重機そして色とりどりのパレットなどが混じりあい、港でしか醸し出すことのできない景観を創り出している。これをなくすのは実にもったいないことだとつくづく思うのは、写真家の独りよがりだろうか。

もう十年以上前のこと、じっくりと山下埠頭を見たときこんなホイストが付いた倉庫が残っている港なんてもう日本にはないと思った。確かにいろいろと旅をして地方の港へいってもホイストの姿はほとんど見ることはなくなってしまった。水辺の倉庫は機能として、また景観としてもホイストが重要な役割をしていると思う。最後に、そんなホイストのある風景をかたくなに守り続けている倉庫を紹介したいと思う。残念ながら横浜ではなく東京・芝浦にある東京倉庫運輸の「第一東運ビル」（1963 年）だ。芝浦運河に面して昔のままの姿で佇んでいる。再開発でタワーマンションが林立する中、芝浦の倉庫街の歴史ある風景をできる限り残したいとの思いから、ほとんど使われなくなったホイストも維持管理しているという。当然、倉庫自体も今も現役で使われている。横浜ではもう見ることができない消えゆく風景にまさか東京で出会うとは、目をつむって山下埠頭の倉庫群と画像を重ね合わせてみた、、。

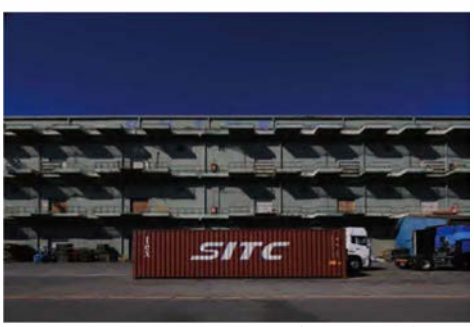
白いバルコニーが特徴の日新倉庫（2015.2.1撮影）



グリーンで統一された日本通運倉庫（2015.1.25撮影）



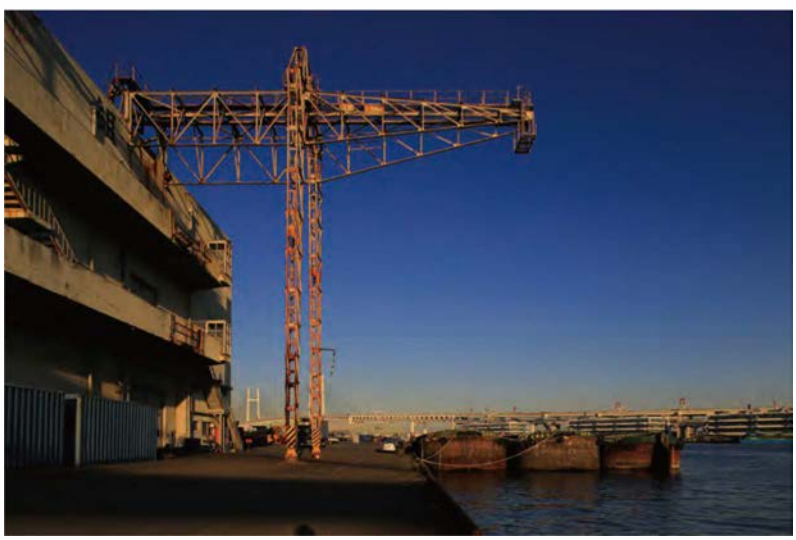
みなとみらい側に建つ三菱倉庫（2014.10.19撮影）



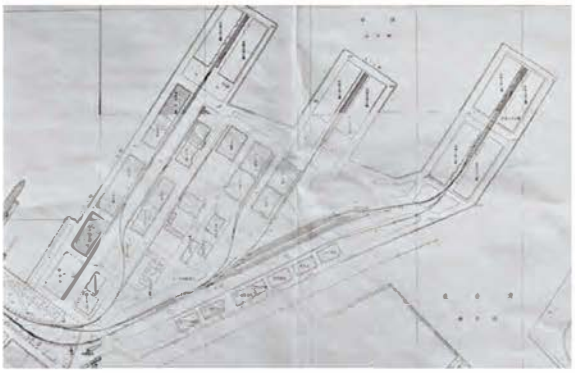
影を生むバルコニーの造形がおもしろい鈴江倉庫
（2015年2月1日撮影）

倉庫、ホイスト、コンテナが埠頭の風景を創る
（2015年2月1日撮影）

鈴江倉庫と日新倉庫の間からみなとみらいを望む（2017.3.19撮影）



新山下側の上組倉庫。ダルマ船の姿も残る（2017.1.10撮影）



1970年の山下埠頭地図

2000年の山下埠頭地図

芝浦運河に建つ倉庫「東運第一ビル」

「歴史を生かしたまちづくりファンド」寄付のお願い

「歴史を生かしたまちづくりファンド」は、皆さまの貴重なご寄付によって成り立ちます。

「歴史を生かしたまちづくりファンド」への寄付金は、歴史的資産等の調査、修理、取得、管理、啓発等に関するプロジェクトに活用させていただきます。

横浜歴史資産調査会は内閣府認定の公益社団法人であり、免税団体です。「歴史を生かしたまちづくりファンド」へのご寄付は、税法上の優遇処置（寄付金控除）を受けることができます。お申し込みの方は、事務局まで住所等連絡先をお知らせください。横浜を愛する皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

●個人：一口 3,000 円
●団体・企業等：一口 100,000 円
●振込み先：横浜銀行　県庁支店　普通口座 6046423
「歴史を生かしたまちづくりファンド」

「歴史を生かしたまちづくり相談室」相談受付中！

公益社団法人横浜歴史資産調査会では、横浜市と連携し、歴史的建造物の保全活用など歴史を生かしたまちづくりに取り組んできました。

近年、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者の抱える悩みも複雑化し、深刻になっています。横浜歴史資産調査会内に「歴史を生かしたまちづくり相談室」を開設しています。主に歴史的建造物の所有者を対象として、専門家や関係活動団体、行政が連携し、具体的な対応策について提案していきます。相談は無料で、どなたでもお申込みいただくことができます。ホームページにあるフォームから、または相談シートをダウンロードして頂き、必要事項をご記入の上、メール、郵送、ファクシミリによりお申込みください。また、毎週水曜日には電話による相談も受け付けています。

【お問い合わせおよび相談はこちらへ】
公益社団法人横浜歴史資産調査会　事務局
〒231-0012　横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室
TEL/ FAX：045-651-1730
E-mail：yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

○2019 年度 賛助会員・団体会員の皆様いつもご支援をありがとうございます○
公益財団法人はまぎん産業文化振興財団、株式会社三陽物産、NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、横浜市大倉山記念館（順不同）

旧モーガン邸再建に向けてみんなで始動

米山淳一　（公益社団法人横浜歴史資産調査会　常務理事）

建築家J.H.モーガン（アメリカ）をご存知の方は多いと存じます。彼は日本各地で建築を手がけました。なかでも旧丸ビルや郵船ビル（東京・丸の内）は有名でしたが、残念ながら解体されてしまいました。

横浜山手では、ベーリックホールや111番館、さらには根岸競馬場一等馬見所、英国聖公会聖堂、外国人墓地正門他、多くの建物を設計しました。横浜での作品は現在でも保存活用され、横浜の歴史を生かしたまちづくりの核になっています。

モーガンは、日本文化をこよなく愛し、自邸は横浜市戸塚区に隣接する藤沢市大鋸の地にありました。荒廃していた自邸の保存に長年、地域の旧モーガン邸を守る会や藤沢市民が関わり、2005年には財団法人日本ナショナルトラストと藤沢市が取得所有し、保存の手が打たれました。

ところが、２回にわたる不審火により焼損してしまいました。焼損後も旧モーガン邸を守る会を始め多くの皆様の愛情に包まれ、モーガン邸は大切な文化遺産として守り継がれてきました。一方、所有者は資金の問題もあり方向を決めかねており、再建にはほど遠い状況が約15年間続いておりました。

そこで、当公益社団は所有者と調整を行い、この度当公益社団で再建に向けて新たな保護事業と位置付け、セミナーを開催する運びとなりました。既に、再建計画に向けて当公益社団の理事他による調査を実施し、報告書を作成いたしました。これを今後の礎として本格的な再建事業を目指して参ります。

そのスタートが今回のセミナーです。暖かな春の陽光に照らし出され、新たな船出を輝かしいものといたしたく存じます。皆様の笑顔やエールを糧に、荒波へ乗り出す覚悟でおります。ご多忙中とは存じますが、ご参加のほど心よりお願い申し上げます。

門は現存・国登録有形文化財（写真　米山淳一）

焼損した旧モーガン邸、玄関部分が残る（写真　米山淳一）

「ヨコハマヘリテイジセミナー2020」
～旧モーガン邸の新たな船出～
ご案内

日　時　令和2年3月20日（金）午前10時30分～12時15分
場　所　Fプレイス（藤沢市藤沢公民館・労働会館等複合施設）3階大ホール
　　藤沢市本町1-12-17
主　催　公益社団法人横浜歴史資産調査会
共　催　NPO法人 旧モーガン邸を守る会
協　力　藤沢市、横浜市都市デザイン室

新型コロナウイルス
感染症予防のため
中止といたしました

プログラム
1. 開会挨拶
　公益社団法人横浜歴史資産調査会　副会長　吉田鋼市（横浜国立大学名誉教授）
2. 趣旨説明　「再建に向けた事業の経緯と展開」
　同　常務理事　米山淳一
3. 旧モーガン邸再建調査報告と計画について
　同　理事　水沼淑子（関東学院大学教授）
4. NPO法人旧モーガン邸を守る会のこれまでとこれから
　会長　徳重淳子
5. シンポジウム
　『旧モーガン邸再建に向けて皆でエールを送ろう』
　コーディネーター　菅孝能（山手総合計画研究所会長）
　パネリスト
　　廣田邦夫　（湘南藤沢文化ネットワーク会長）
　　渡辺剛治　（清閑亭館長）
　　鈴木美都子　（旧横浜ゴム平塚製造所記念館・八幡山の洋館）
　総括　後藤治　（工学院大学理事長）
6. 閉会挨拶
　公益社団法人横浜歴史資産調査会　監事　中村實

ヨコハマヘリテイジ NEWS

「シルクロード・ネットワーク・神戸フォーラム2020」
開催のお知らせ

絹の歴史と文化を守り育てる地域や関係者が集う「シルクロード・ネットワーク協議会」の６回目のフォーラムを、はじめて西日本で開催します。関東大震災後、シルク産業は横浜から神戸に中心を移しました。見学会では、港町・神戸に残るシルク関連遺産、旧居留地などを訪ね、フォーラムでは、神戸のシルクファッションや、兵庫県内の絹の道に関する講演、各地の事例報告、シンポジウムを行う予定です。

●2020年６月６日（土）～６月７日（日）
見学会　　６月６日（土）13：00頃　KIITO（生糸検査所として建てられた建物）集合
フォーラム　６月７日（日）10：00～15：00予定　　KIITO会議室にて

KIITO（写真　米山淳一）

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2020早春号】　令和2年2月28日発行
公益社団法人 横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ）〒231-0012横浜市中区相生町3-61　泰生ビル405号室
Tel：045-651-1730　mail：yh-info@yokohama-heritage.or.jp